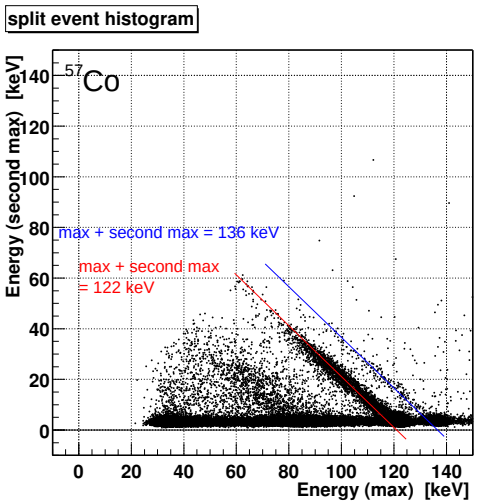


図 6.22: 最も大きい波高値と 2 番目に大きい波高値の 2 次元ヒストグラム。$^{57}$Co、peaking time $= 2$ $\mu$sec

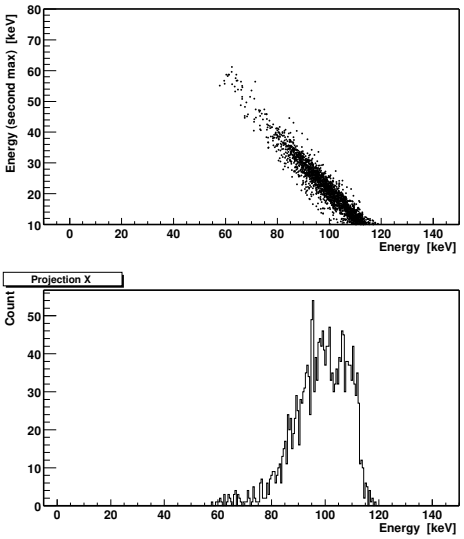


図 6.23: スプリットイベントを抜き出した 2 次元ヒストグラム (上) と上図の X 軸への射影 (下)

み出す場合には AC 結合したチャンネルではトリガーをたてないようにした。使用した線源は $^{241}$Am で、測定条件は TypeA、RC チップともに 70 V の逆バイアス電圧をかけ、全空乏層化させ、peaking time $= 2$ $\mu$sec とした。ただし、AC 結合側を測定したときの温度は 20 度であるのに対し、DC 結合側を読み出すときはリーク電流をおさえるために 0 度に設定した。データの読み出しシーケンスは図 4.12 に示した通りである。

図 6.24: FEC と TypeA の接続。下側が DC 結合、上側が AC 結合である。

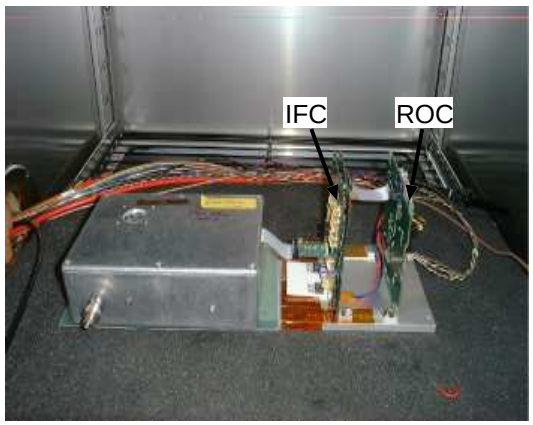


図 6.25: 新しい読み出しシステムを用いて TypeA を読み出すときのセットアップ

得られた結果を図 6.26、図 6.27 に示す。これらのスペクトルは多チャンネルの加算スペクトルであり、VA-DAQ を用いて測定していたときと同じ方法で解析を行った結果で